



木村木材工業(株) (埼玉県北本市)



今年の夏から厚さ別の対応に切り替えた



厚さ別の対応で生産効率UP

カナダツガの品質チェック

平積みと異なり引き出すスペースが必要だが取り出しやすくなる

カナダツガを中心としたムク造作材、注文材の製材で知られる**木村木材工業(株)**(埼玉県 木村司社長)。ムク造作材の製材では全国有数の規模を誇る。同社では今夏から節電対応と生産効率の向上を図るため、材料置き場の大移動を行った。従来の幅別対応から厚さ別の対応に切り替えるためだ。

きっかけは作業員の一人から出た提案だった。そもそも製材では幅別の平積みが常識である。幅別対応は邸別にまとめる上で都合が良い。ところがこの保管方法に異を唱える社員がいた。副主任の関根さん、入社5年目の作業員である(上写真)。

「幅別の対応では、自分の扱う幅以下でしか利用できないものの場合、そこで切ることが多く、短尺材が多くできてしまいます。しかし、厚さ別に対応することにより、より長尺での利用が可能になります」

今までの保管の仕方では、古いものが下に配されてしまうので、古いものが利用しにくい。そこで本棚のような収納方法とすることで、使いたい材料を取り出しやすくなる。関根さんの意見に木村司社長も納得した。同社では工場見学の際に各部門の作業員が説明できるようにするなど、現場を熟知した社員の自発性を重視している。

2階リビング 造作材で多いのはカナダツガ。今回は通常の4倍の材積4㎡



所在地: 東京都大田区中央
敷地面積: 16 坪半
床面積: 80.04㎡ (24.25 坪)
設計・施工: 株式会社 創建舎 (東京都大田区)
構法: 木造地下室付き2階建
参考価格: 約 6000 万円 (土地代込)



16 坪半で 4 人家族の家 こだわり造作工事で洋室を美しく

社長の自宅兼モデルハウス。16坪半の土地に4人家族の家を建てるという想定でモデルハウスを建設した。地下室付きで延べ床面積24坪(80.04㎡)。これで何とか4人家族が住める。

設計・施工は創建舎(東京路大田区中里一雄社長)。売上規模は年間9億円。うちリフォームは2億。新築は年間20棟で7億円の規模だ。社員は24名でうち大工は9名。同社の特色は大工を社員にして育てようという意志が明確であることだ。造作工事の手間は一切惜しまない。

工事は昨年末から開始して6月末に完成。木工事は200人工で2カ月半かかった。今回はモデルハウスなので家具製作に力を入れており、通常はこの規模だと120工ほどだという。都内で戸建住宅を建設すると難しい事情も出てくる。狭小地の現場ではスペースがないため材料の移動だけで半日かかる時もある。建築材料は保管しておくよりも、捨てる方が安い位なのでストックヤードを設けることができない。敷地・道路の狭さ、トラックの搬入スペース、駐車場スペースの確保をクリアしながら施工が進められた。

構造は強度・含水率がしっかりした紀州産ヒノキ・スギを採用。製材は山長(和歌山県田辺市)。